

第6学年 外国語学習指導案 大森東 OGC（国際教育）

日 時：令和7年1月30日（木）第6校時
 学 級：第6学年1組 21名
 場 所：海外体験ルーム
 6年1組 OGC ルーム2
 指導者：T1 シールズ クリスチャン慶敏
 T2 帆刈静香・富田琴子
 外国語教育指導員：Darla Therese Cornett

1 単元名 I want to be a singer.

～友達と応援し合うために、将来になりたい自分について伝え合おう～

2 単元の目標

卒業後も友達と応援し合うために、将来になりたい自分について互いに知り、何がしたいか、どんなことができるかなど、伝え合うことができるようにする。

関係する領域別目標 話すこと [やり取り]

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

＜国際教育の目標＞

- 英語表現を理解し、実際のやり取りにおいて活用する力を身に付ける。
- 相手に伝わりやすい方法を工夫して表現できる。
- 自分が考えたことを積極的に発信しようとする態度を養う。

3 単元の学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
外国語 (OGC) 話すこと [やり取り]	〈知識〉将来になりたい自分について伝える語句や表現の意味や働きを理解している。 〈技能〉将来になりたい自分について、語句や表現を正しく用いて、質問したり答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。	友達と応援し合うために、将来になりたい自分について、何がしたいか、どんなことができるかなど、質問したり答えたりして自分の考えや気持ちなどを含めて、会話を続けている。	友達と応援し合うために、将来になりたい自分について、何がしたいか、どんなことができるかなど、質問したり答えたりして自分の考えや気持ちなどを含めて、会話を続けようとしている。
国際教育 視点の 評価規準	① 将来になりたい自分について伝える英語表現を理解し、実際の自然なやり取りにおいて活用する力を身に付けている。	① 将来になりたい自分について、相手の発話に対する感想や相手の言ったことを繰り返し言うことで理解していることを示すなど、工夫して表現しながら会話を続けている。	① 将来になりたい自分について、質問したり答えたりしながら自分の考えや気持ちを、その場の相手に応じた即興的なやり取りで積極的に発信しようとしている。

4 言語材料

表現

He is a soccer player. I want to be an engineer. I want to make robots.

I like science. I can cook Japanese food.

Do you know ~? Do you like ~? Do you want to ~? What do you want to be?

What's that? Wow! Oh! Okay! I see. Really? Me, too. That's great! That's good!

5 単元について

高学年では、「日本と外国の文化を理解し、それぞれのよさや多様性に気付き、互いを尊重し合うことができる児童」「自分の考えや気持ちについて自信をもって表現しながらやり取りを続けることができる児童」を目指している。

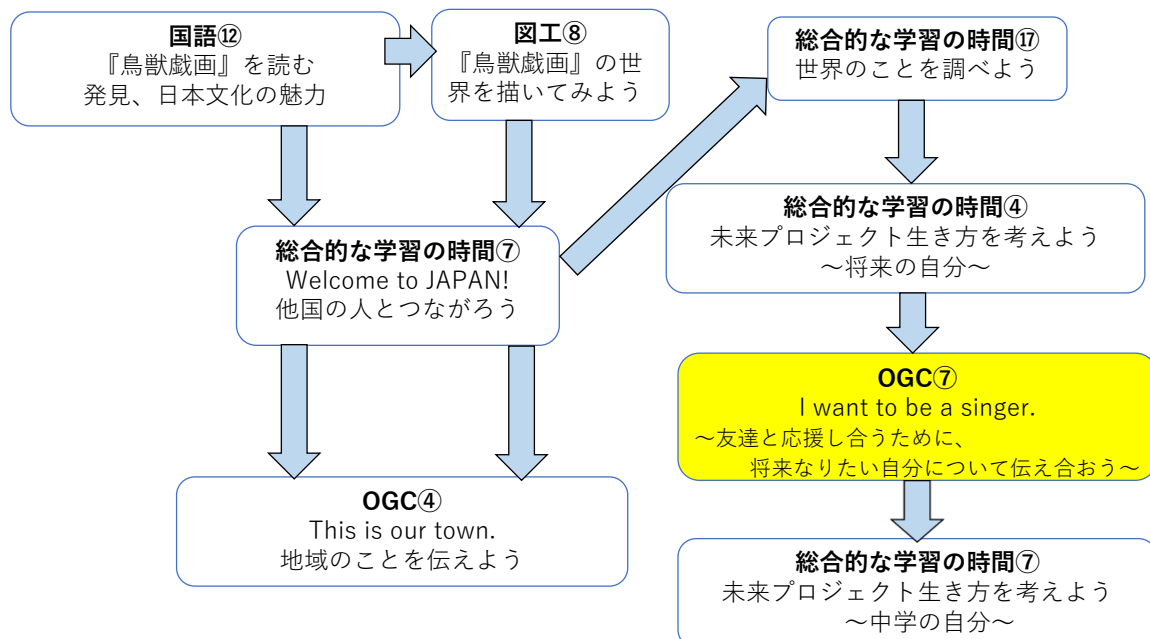
1学期には、日本の文化理解をさらに広げ、世界に目を向けさせるために、総合的な学習の時間「Welcome to JAPAN! 他国の人とつながろう」と関連させて学習を行い、世界に誇る日本文化の魅力を調べさせた。日本文化を大切にすることを育てるとともに、外国の方に発信する活動を通して、相手意識と目的意識をもたせることで、日本と外国とのつながりに興味をもち、外国の文化や伝統への関心を高めることを期待し、学習を進めてきた。2学期では、日本と外国とのつながりや将来になりたい自分と関係のある国について調べ、相手に自分の考え、気持ちを伝え合うことで、グローバルな人材育成につながると考えた。

本単元は、単元の最後に将来になりたい自分を伝え合う活動において、発表中に話し手と聞き手が双方に既習の表現を使い、質問したり答えたりし合うことも含め表現することを目指し、話すこと[やり取り]に焦点を当てた。そこで、総合的な学習の時間「世界のことを調べよう」、「未来プロジェクト生き方を考えよう～将来の自分～」と「未来プロジェクト生き方を考えよう ～中学の自分～」、OGC「I want to be a singer. ～友達と応援し合うために、将来になりたい自分について伝え合おう～」を関連させた。

総合的な学習の時間「世界のことを調べよう」では、他国とつながりのある大田区の文化や東京の文化についての紹介を聞き、世界に誇る日本文化について調べる学習活動を行った。次に、将来になりたい自分と関係のある国について、本や資料を活用しその国の特色や日本とのつながりを調べたことを友達と伝え合う学習活動を行った。そして OGC の学習では、Small Talk で外国の職業について取り上げたり、外国の子どもたち 100 人の将来の夢を動画で見たりする時間を設け、外国への興味・関心を高めた。また、将来になりたい自分について紹介するだけでなく、それに関係のある国を選び、紹介に取り入れることで外国へ目を向ける活動とした。次の単元では、中学生や留学生へ発信することを伝え、相手意識と目的意識をもたせる。将来になりたい自分について、自分の考えや気持ちなどを含めて留学生と積極的に会話を続け、発信する活動を取り入れた。こうした活動により、その場で相手と簡単な英語表現を活用し、短い会話のやり取りを続ける体験を積み重ねてきた。

このような活動を通して、英語力・発信力・コミュニケーション力が身に付き、自己肯定感や多様性を認め合う心情が高まり、国際社会で活躍できるグローバルな人材の育成につなげたい。

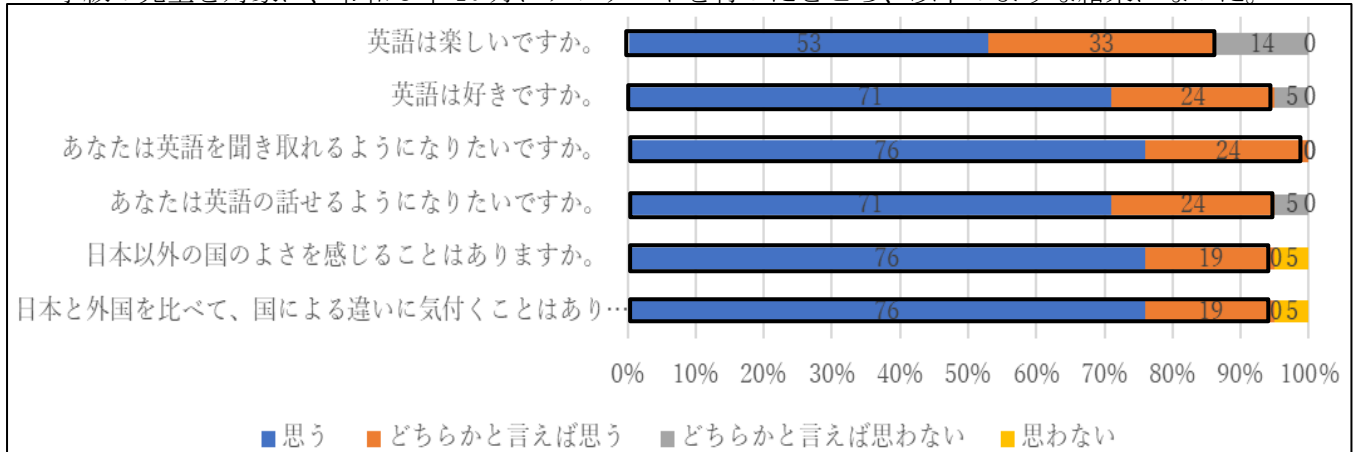
＜本単元との関連教科および単元名＞ ※教科名の横の数字は、授業時数



6 児童について

本学級は、外国にルーツをもつ児童が多く在籍している。国語では、教科書教材の中国語の例文を流暢な中国語で披露する児童や、海外の伝統的な遊びを紹介する児童がいるなど、国際色豊かな雰囲気の中で生活している。また、日本語の文章を読むことに苦手意識がある外国籍の児童には、読み方や意味を教える児童がおり、友達同士の助け合いが多く見られる。

学級の児童を対象に、令和6年10月にアンケートを行ったところ、以下のような結果になった。



「日本と外国を比べて、国による違いに気付くことはありますか。」「日本以外の国のよさを感じることはありますか。」という設問において、どちらも肯定的な回答が95%と高いことが分かる。「あなたは英語を話せるようになりたいですか。」という設問において肯定的な回答が95%、「あなたは英語を聞き取れるようになりたいですか。」という設問において肯定的な回答が100%だった。

「英語は好きですか。」という設問において肯定的な回答は95%。「英語は楽しいですか。」という設問において肯定的な回答が、88%であり、多くの児童が「好き」「楽しい」「できるようになりたい」と考えていることが分かる。

2024年度実用英語技能検定5級のListeningの結果でも、平均正答率が69%であった。特に、第3部の正答率は88%と突出していた。キーワードとなる英単語を聞き取り判断できる力を身に付けていることがうかがえる。

そこで、今回の教科等を横断した学習においても、中学生への発信と留学生への発信をする活動を設定し、相手意識と目的意識をもたせて取り組ませたいと考える。将来になりたい自分について理由を含めて表現することで、今までOGCで学んだことを学習に生かすことができると考えた。また、即興性のあるやり取りができる場を設定するために、児童が用意したスライドの順番を教師が入れ替えてランダムに投影することで、話し手がより実践的なコミュニケーションに近付けていくことを目指していきたい。

総合的な学習の時間とOGCの教科等を横断する学習をすることで、キャリア教育との関連を図りながら授業を構成した。OGCでは、外国の様々な職業についてSmall Talkで触れることや外国のこどもたちの夢を聞く活動を通して、クラスの友達と将来の自分について考えを交流するだけでなく、様々な夢をもつ仲間が世界にもいることに気付かせたい。

さらに、外国に目を向けた後に総合的な学習の時間「未来プロジェクト生き方を考えよう～中学の自分～」の学習を行い、将来の自分に近づくために中学でどのようにしていきたいかを考えさせ、中学の学習へと意欲を高めることができると考えた。

このような活動を通して、自分に自信をもって将来国際社会で活躍できる児童の育成につなげていきたい。

7 国際教育の視点における指導と評価の計画

時	ねらい	主な学習活動・内容	知	思	主	評価方法
1	世界のいろいろな職業の人を知る。	○Small Talk(外国の職業紹介をやり取りしながら聞く。) ○職業あてクイズをする。 ○できること、得意なことについてやり取りする。				※国際教育の視点における評価は行わない。
2	いろいろな職業を伝える。	○Small Talk(前時と同様) ○いろいろな職業の人になりきり、友達と紹介し合う。 ○外国のこどもたちの将来の夢を動画で見る。 ○将来なりたい自分を伝える文を読む。将来なりたい自分を伝える文を書く。				※国際教育の視点における評価は行わない。
3	将来なりたい自分と関係のある国を伝える。	○Small Talk(前時と同様) ○いろいろな職業の人になりきり、友達と紹介をし合う。 ○将来なりたい自分と関係のある国をペアで伝える。			①	将来なりたい自分について、質問したり答えたりしながら自分の考えや気持ちを、その場の相手に応じた即興的なやり取りで積極的に発信しようとしている。 (行動観察・記録)
4	スライド画像をもとに、将来なりたい自分と関係のある国、選んだ理由を伝え合う。	○Small Talk(前時と同様) ○いろいろな職業の人になりきり、友達と紹介をし合う。 ○将来なりたい自分と関係のある国、選んだ理由をグループで伝え合う。			①	
5	ランダムに示されたスライド画像をもとに将来なりたい自分と関係のある国と理由を伝え合う。	○Small Talk(前時と同様) ○ランダムに示されたスライドをもとに、将来なりたい自分と関係のある国と理由をグループで伝え合う。	①			将来なりたい自分について伝える英語表現を理解し、実際の自然なやり取りにおいて活用する力を身に付けている。 (行動観察・記録)
6	将来なりたい自分と関係のある国と理由について、分かりやすく相手に伝えているかグループでアドバイスし合う。	○Small Talk(前時と同様) ○ランダムに示されたスライドをもとに、将来なりたい自分と関係のある国と理由についてグループで伝え合う。		①		将来なりたい自分について、相手の発話に対する感想や相手の言ったことを繰り返し言うことで理解していることを示すなど、工夫して表現しながら会話を続けている。 (行動観察・記録)
7 本 時	学級の友達に将来なりたい自分と関係のある国と理由についてやり取りしながら伝え合う。	○Small Talk(前時と同様) ○将来なりたい自分と関係のある国と理由を伝え合う。		①		

※次の単元では、将来なりたい自分について伝え合う学習活動を中学生や留学生へと発信していく。

8 本単元における研究主題に迫るための具体的な手だて

(1) シャッフルカードによる即興性のあるやり取りができる場の設定

将来なりたい自分について考えを伝え合い、即興性のあるやり取りができる場を設定するために、児童が用意したカードの順番を入れ替えて示した。

(2) Small Talk の充実

将来なりたい自分を伝え合う活動を想起させやすいようにするために、世界の職業について教師が児童とやり取りをしながら繰り返し簡単な英語表現に触れる機会を設定した。また、自己評価シートを活用し、活発なやり取りへとつながるようにした。

(3) やり取りを重視した活動の工夫

外国の方と話すことを想定し実践的な英語力をさらに高め、即興性のあるやり取りをするために、イングリッシュサーキットという活動を設定した。

※イングリッシュサーキットとは、体を動かしながら既習事項を反復することで、即興性が必要な状況で英語表現を言えるような場である。海外体験ルームを活用することで、既習表現をいくつも何度でも表示したり、ゲーム感覚でより難易度の高いものに変えたりすることができ、即興性のあるやり取りが可能になるため、外国の方と話すことを想定したより実践的な英語力を養えると考えた。

活動は、質問とリアクションをする児童 A と、その返答をする児童 B がペアになって行う。ペアでパネル 1 からパネル 6 へとやり取りをしながら進み、パネル 6 まで終わったら、A と B の役割を交代し、2 周目を行う。

パネル 1	パネル 2	パネル 3	パネル 4	パネル 5	パネル 6
A: What subjects do you like?	A: Where do you want to go?	A: What can you do?	A: What do you want to be?	A: How was Sports Day?	A: What do you want to do?
B: I like science.	B: I want to go to Brazil.	B: I can sing.	B: I want to be a soccer player.	B: It was fun.	B: I want to help people.
A: I see.	A: Oh, Brazil.	A: That's nice.	A: Oh, really.	A: That's great.	A: Me, too.

9 本時の学習（全7時間扱いの第7時間目）

（1）本時の目標

外国の人に自分の思いを伝えることを想定し、将来なりたい自分について、相手の発話に対して感想や相手の言ったことを繰り返し言うことで理解していることを示すなど、工夫し表現することで会話を続ける。

（2）本時の展開 場所 ①海外体験ルーム ②6年1組 ③OGC ルーム2

過程	場所	形態	学習活動	○指導内容 ●支援 ☆留意点	※研究との関連 (個別の手だて)	評価事項
導入 つかむ 7分	海外 体験 ルーム	全体 ペア 全体	1 Greeting 挨拶と簡単な質問に答える。 2 Warm Up 〈イングリッシュサーキット〉 ペアになってQ&Aとリアクションをする。次の場所へ移動し、質問者と回答者を交代して、2周する。 3 Today's Goal 友達と応援し合うために、将来なりたい自分について伝え合おう。 4 Small Talk 教師と児童全体でやり取りしながら行う。	○学習に参加しやすい雰囲気づくりをする。 ●その場に合った英語表現が思い付かない児童には、個別に声を掛け、支援する。 ☆発表に使う英語表現を Small Talk のやり取りをしながら確認させる。		
展開 広げて 深める 30分	① ② ③ 3つの部屋へ移動する。	ペア	5 Activity ランダムに示されたスライド画像をもとに将来なりたい自分と関係のある国と理由を伝え合う。発表していない児童は、観察者として評価シートをもとに友達のやり取りを見る。（ローテーションで行う。） ※教室を順番に回り、ペアで、将来なりたい自分について伝え合う。	●相手の発話に対してどう反応すべきか例を挙げ、どうしたら相手に伝わりやすくなるかを考えさせる。 ○上手なペアを紹介し、価値付けする。（中間評価） ☆3つの教室ごとに、教師が児童の評価を行う。授業終了後にその評価を教師同士で共有する。	※観察者には評価シートをもとに、友達のよいところに注目させ、見る視点を与える。	将来なりたい自分について、相手の発話に対する感想や相手の言ったことを繰り返し言うことで理解していることを示すなど、工夫して表現しながら会話を続けている。 【イー①】 （行動観察・記録）
まとめ 8分	海外 体験 ルーム	個人	6 Reflection 本時の学習を振り返る。	○自己評価シートで、本時の活動を振り返るとともに、活動の感想を促し、挙手や口頭で答えさせる。	※次の単元について伝え、発信していこうとする意欲をもたせる。	

(3) 〈児童同士のやり取り例〉評価

A 評価

リアクションやジェスチャーでスムーズなやり取りができている。

質問 ①

A: What do you want to be?

B: I want to be a soccer player.

A: Oh, interesting! Why do you want to be a soccer player?

B: I want to play with strong players.

A: That's great!

質問 ②

A: What subjects do you like?

B: I like P.E.

A: Oh, really! Me, too!

質問 ③

B: What can you do?

A: I can juggle a soccer ball.

B: That's nice.

質問 ④

B: Where do you want to go?

A: I want to go to Brazil.

B: Oh, Brazil. Why?

A: I want to play soccer in Brazil.

B 評価

文章が不完全で単発の答えがあり、リアクションが少ないが言いたいことはわかり、やり取りが成立している。

質問 ①

A: What do you want to be?

B: soccer player.

A: Why?

B: Fight strong players.

A: Great!

質問 ②

A: What subjects do you like?

B: P.E.

A: Me, too!

質問 ③

B: What can you do?

A: Juggle, soccer ball.

B: Nice.

質問 ④

B: Where do you want to go?

A: Brazil.

B: Why?

A: Play soccer in Brazil.